

# 営農情報

## ～水稲の今後の管理について～

JA東びわこ

### 水稲ほ場に水は入ってますか？

7月中旬以降、気温が高く、降雨も少ない日が続いています。これから本格的に登熟を迎える時期となり、水稲の一生の中でも最も水を必要とする期間になります。

高温が続くこの時期に**水を切らすと白未熟粒や胴割粒の発生や籾の充実不足が助長**されるので、しっかり田んぼに水を張るとともに、**落水時期は収穫5日前頃を目安**にできる限り遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持し、米の品質が低下しないよう注意しましょう！

また、こまめな入水では場内の温度を下げる工夫も行いましょう。（朝晩の比較的水温の低い時間の入水など）

### 収穫時期の目安を立てましょう！

本年は梅雨明け以降高温の日が多く、降雨も少ない状況です。出穂後に気温の高い年は登熟日数が短くなる傾向にあります。

早生品種だけでなく、中晩生品種でも、**出穂後30日を過ぎたら収穫できるように準備**をすすめましょう！

収穫の適期は、籾の黄化が90%程度になった頃です！  
※過去10年の品種別登熟日数

品種	みずかがみ	コシヒカリ	日本晴	秋の詩
出穂期から成熟期までの日数	34日 (30～38日)	34日 (30～38日)	38日 (34～45日)	34日 (31～47日)

## ～大豆の今後の管理について～

### 葉が裏返っていたら注意！

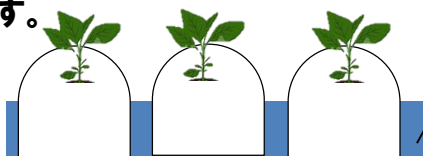
7月20日に近畿地方の梅雨明けが発表され、本年は降雨が少なく高温の日が続いています。6月中下旬頃に播種された『ことゆたかA1号』では開花が始まっているほ場も見られます。

**大豆は開花期～登熟期にかけて多くの水を必要**とし、水は子実肥大期まで必要となります。

この時期の**水不足は、落花や落莢などの収量減収**につながるとともに、青立ちの原因にもつながります。

日中に葉が50%以上反転が見られる場合は早急うね間かん水を行きましょう！

※ほ場全体に水が行き渡ったら、すぐに排水を始めましょう！長時間のうね間かん水はかえって大豆に悪影響を与えます。



中耕培土栽培の場合は うねの高さの2分の1程度までのかん水

## ～台風対策について～

### 台風に備えたほ場管理を！

台風7号については近畿地方への接近の可能性もあり、今後の台風に備えたほ場管理をよろしくお願いいたします！

#### ★水稲

##### 1. 台風通過前の対策

- ①事前に排水路の詰まり等の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備えましょう。
- ②出穂期から穂揃期にかけては風害を受けやすいため、やや深めに水管理に努めましょう。
- ③成熟期に近いものは台風襲来前に多少早目でも刈取りするようにしましょう。

##### 2. 台風通過後の対策

冠水の著しいほ場においては、白葉枯病等の発生が懸念されることから、排水後、病害の発生動向に十分注意し、冠水や浸水の被害を受けた稲体は水分調整、肥料吸収等の機能が低下していることから、田面の過度な乾燥に注意しましょう。

#### ★大豆

##### 1. 台風通過前の対策

事前に排水路の詰まり等の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備えましょう。

##### 2. 台風通過後の対策

- ①冠水または浸水した場合、速やかな排水に努めましょう。
- ②冠水の著しいほ場においては、莖疫病や葉焼病等の発生が懸念されることから、排水後、病害の発生動向に十分注意し異常が見られる場合はJAにご相談ください。

## ～熱中症対策について～

### 農作業中の熱中症の予防管理を！

7月中旬頃から暑い日が続いています。作業中の熱中症には十分注意いただき下記の点に心掛けてください。

#### ◎高温時の作業を避けましょう！

朝晩の比較的気温の低い時間帯に作業を行いましょう

#### ◎こまめな休憩と水分補給を忘れずに！

農作業時には必ず水分や濡れタオルを持参しましょう。（適度な休憩と塩分補給も忘れずに）

#### ◎涼しい服装での作業を！

農作業時は帽子を着用し、汗を吸いやすく乾きやすい素材の衣服を着用しましょう

#### ◎作業は2人以上で行いましょう！

1人での作業はできるだけ避けましょう。1人で作業する場合は必ず、家族に作業場所・帰宅時間を伝えましょう